

[平成20年度設置]

岡山大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）
【教職大学院】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 岡山大学
平成20年4月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名 企画係長・近藤 一彦

電話番号 086-251-8416

（夜間） 086-251-8416

F A X 086-251-7294

e-mail kondou-k@adm.okayama-u.ac.jp

目 次

1	調査対象大学院の概要等	1
2	授業科目の概要	4
3	施設・設備の整備状況	7
4	既設大学院等の概要	8
5	教員組織の概要	16
6	留意事項に対する履行状況等	21
7	情報提供に関する事項	23

教職大学院設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学院の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 岡山大学

(2) 大学名

岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）

(3) 大学院本部の位置

岡山県岡山市津島中三丁目1番1号
（岡山県岡山市津島中一丁目1番1号）

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長			
学長	(チバ キョウゾウ) 千葉 喬三 (平成17年6月)		
研究科長	(タカハシ カヨ) 高橋 香代 (平成18年4月)		
専攻長			

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科の名称, 定員

調査対象学部等の 名称(学位)	認可時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
教育学研究科 教職実践専攻(P) 教職修士(専門職)	2 年	20 人	40 人	学校教育に関する理論と実践を教授研究し、今後の学校教育に必要な知識・技術を身につけ、今日的教育課題や教育事象について、実践と理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる高度教育実践力を育成し、専ら高度専門職業人である教員の養成と研修のための教育を行うことを目的とする。

(5) -②- (a) 調査対象研究科等の入学者の状況(概要)

区 分	対象年度		平均入学定員 超過率	備 考
	平成20年度	平成21年度		
A 入学定員	20 人		1.00倍	
志願者数	24			
受験者数	24			
合格者数	20			
B 入学者数	20			
入学定員超過率 B/A	1.00			

(5) -③- (a) 調査対象研究科等の在学者の状況(概要)

学 年	対象年度		備 考
	平成20年度	平成21年度	
1年次	20		
2年次			
計	20		

(5) - ② - (b) 調査対象研究科等の入学者の状況（学生の区分毎）

（平成20年度入学者）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考	
現 職	岡山県 教育委員会	派遣制度		4	4	1	1	10	その他 0名
		修学休業制度							
		勤務継続							
		その他							
		小 計		4	4	1	1	10	
教 員	計	派遣制度		4	4	1	1	10	その他 0名
		修学休業制度							
		勤務継続							
		その他							
		小 計		4	4	1	1	10	
学 部 新 卒 者	教員免許 の有無	有	2	9	8	8	2	10	
		無							
		小 計	2	9	8	8	2	10	
合 計		2	13	12	9	3	20		

(5) - ③ - (b) 調査対象研究科等の在学者の状況（学生の区分毎）

（平成20年度入学者）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考	
現 職	岡山県 教育委員会	派遣制度		4	4	1	1	10	その他 0名
		修学休業制度							
		勤務継続							
		その他							
		小 計		4	4	1	1	10	
教 員	計	派遣制度		4	4	1	1	10	その他 0名
		修学休業制度							
		勤務継続							
		その他							
		小 計		4	4	1	1	10	
学 部 新 卒 者	教員免許 の有無	有	2	9	8	8	2	10	
		無							
		小 計	2	9	8	8	2	10	
合 計		2	13	12	9	3	20		

2 授業科目の概要

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			授業形態			専任教員配置					備考						
		必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
共通科目	① 教育課程の編成及び実施に関する領域 教育課程編成の実践と課題	1	2				○		1		1								
	特色ある教育課程の実践と課題	1	2				○		1		1								
	② 教科等の実践的な指導方法に関する領域 学習指導の実践と課題	1	2					○		2									
	授業の指導計画と教材開発	1	2					○		2									
	③ 生徒指導及び教育相談に関する領域 生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題	1	2					○		1	1								
	特別支援教育の実践と課題	1	2					○		1									
	④ 学級経営及び学校経営に関する領域 学級・学年・学校経営の実践と課題	1	2					○			1								
	学校保健・学校安全とリスクマネジメント	1	2					○		1									
	⑤ 学校教育と教員の在り方に関する領域 学校教育の役割と教師の職能成長	1	2					○		1	2								
	学校とコミュニティ	1	2					○			1								
	⑥ 教育実践研究に関する領域 教育実践研究の方法	1	2					○		1								⑥は岡山大学独自に設定した領域	
	選択科目	授業分析技術とその応用	1		2				○		1								
		学習意欲を高める学習指導	1		2				○		1								
		教材開発と授業デザイン	1		2				○		1		1						
		授業実践におけるプレゼンテーション力	2		2				○		1								
		特別支援教育における授業づくり	1		2				○		1								
		子ども分析と学級経営	1		2				○		2								
		特別活動とキャリア教育の実際	1		2				○		2	1	1						
生徒指導と子どもの健康課題		1		2				○		2									

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			授業形態			専任教員配置					備 考	
		必修	選択	自由	講義	演習	実験 実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選 択 科 目	校外体験活動の実践研究	1	2			○		3						
	教育相談の技術と実践	1	2			○			1					
	問題行動にかかわるアセスメントと支援プログラムの開発	1	2			○		1						
	スクールリーダーと組織開発	1	2			○		1						
	学校経営戦略と評価	1	2			○			1					
	校内研修のマネジメント	1	2			○			1					
	教師の職能成長とコーチング	1	2			○		1						
	教育法規実践研究	1	2			○			1					
	学校危機管理の方法論	1	2			○								
	教育実践研究Ⅰ（課題発見）	1	2			○		4		1				
	教育実践研究Ⅱ（課題解決）	1	2			○		4		1				
	教育実践研究Ⅲ（課題探求）	2	4			○		9	4	1				
	教育実践研究Ⅰ（課題分析）	1	2			○		1	4					
	教育実践研究Ⅱ（課題提案）	1	2			○		1	4					
教育実践研究Ⅲ（課題検証）	2	4			○		9	4	1					
実 習 科 目	課題発見実習	1	3				○	3	1	1				
	課題解決実習	1	5				○	3	1	1				
	インターンシップ実習	1・2	2				○	3	1	1				

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 14 []	科目 23 []	科目 []	科目 37 []	科目 []	科目 []	科目 []	科目 []	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・分野別・実習	必修・選択・自由	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2		該当科目なし				
3						
4						

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・分野別・実習	必修・選択・自由	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2		該当科目なし				
3						
4						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当科目なし	
--------	--

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \text{該当なし}$$

3 施設・設備の整備状況

(津島キャンパス)

区 分	認可時の計画	変更状況	備 考
【施設】			
講義室	5101室 (149名収容) 5102室 (143名収容) 5202室 (350名収容) 5204室 (72名収容) 5206室 (112名収容) 5207室 (24名収容) 5208室 (91名収容) 5301講義室 (42名収容) 5303講義室 (72名収容) 5304講義室 (70名収容) 5306講義室 (42名収容) 5307講義室 (91名収容) 5401講義室 (72名収容) 5403講義室 (72名収容) 5404講義室 (70名収容) 5405講義室 (77名収容) 5407講義室 (91名収容)	5101室 (149名収容) 5102室 (143名収容) 5202室 (350名収容) 5204室 (72名収容) 5206室 (112名収容) 5207室 (24名収容) 5208室 (91名収容) 5301講義室 (42名収容) 5303講義室 (72名収容) 5304講義室 (70名収容) 5306講義室 (42名収容) 5307講義室 (91名収容) 5401講義室 (72名収容) 5403講義室 (72名収容) 5404講義室 (70名収容) 5405講義室 (77名収容) 5407講義室 (91名収容)	教育学研究科, 教育学部 教育学部校舎改修工事のため, 平成21年3月末までの間 5401室, 5403室, 5404室, 5405室, 5407室が使用できないため。なお, 他の講義室で十分に授業は実施可能であり, 教育に支障はない。⑳
演習室	1224室 (10名収容) 5205室 (20名収容) 5402室 (16名収容) 5406室 (20名収容)	1224室 (10名収容) 5205室 (20名収容) 5402室 (16名収容) 5406室 (20名収容) 1209室 (30名収容) 1229室 (30名収容)	教育学研究科, 教育学部 (1224室を除く) 教育学部校舎改修工事のため, 平成21年3月末までの間 5402室・5402室が使用できないため。なお, 以下の講義室も演習にも使用しており, 教育に支障はない。⑳ 5207室 (24名収容) 5301室 (42名収容) (両講義室とも移動式機のため演習授業にも使用可能)
自習室	1225室 (30名収容) 【学生1人当たりの専有面積1.93㎡】	1225室 (30名収容) 【学生1人当たりの専有面積1.93㎡】	(変更無し)
コンピュータ演習室	5305室 (40名収容、PC40台)	5305室 (40名収容、PC40台)	教育学研究科, 教育学部 8:40~17:30 (変更なし)
教員研究室	145室~3103室 計15室 (16名収容、PC各1台)	145室~3103室 計15室 (16名収容、PC各1台) 5402室 (3名収容、PC3台) 5401室 (7名収容、PC7台) 5405室 (8名収容、PC8台) 5407室 (6名収容、PC6台)	教育学部校舎改修工事のため, 平成21年3月末までの間, 1つの研究室を複数教員が使用することとなるが, 教育研究活動上支障はない。⑳
教職実践資料室 兼コラボレーションセンター	1109室	1109室	(変更無し)
【設備】			
図書	図書53,597冊【外国書9,676冊】 学術雑誌846種【外国雑誌454種】 電子ジャーナル5,594種【外国書5,594種】 視聴覚資料118点	図書54,223冊【外国書9,776冊】 学術雑誌859種【外国雑誌454種】 電子ジャーナル5,665種【外国書5,665種】 視聴覚資料118点	図書等の充実を図ったため⑳

4- (1) 既設大学等の状況

大学の名称	岡山大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年		
文学部					学士(文学)	1.08			
人文学科	4	175		700		1.08	平成16年度	岡山市津島中三丁目1番1号	
人間学科	—	—		—		—			平成16年度から学生募集停止
行動科学科	—	—		—		—			平成16年度から学生募集停止
歴史文化学科	—	—		—		—			平成16年度から学生募集停止
言語文化学科	—	—		—		—			
教育学部					学士(教育学)	1.09		岡山市津島中三丁目1番1号	
学校教育教員養成課程	4	250		920	学士(学術)	1.09	平成11年度		平成18年度から定員増 170→250
養護教諭養成課程	4	30		120		1.06	昭和53年度		
総合教育課程	4	(80)		160		1.13			平成18年度から学生募集停止
法学部					学士(法学)	1.07		岡山市津島中三丁目1番1号	
法学科									
昼間コース	4	205		820		1.06	平成16年度		
夜間主コース		20		80		1.08	平成16年度		
法学科	—	—		—		—			平成16年度から学生募集停止
法学部第二部									
法学科	—	—	—	—		—			平成16年度から学生募集停止
経済学部					学士(経済学)	1.11		岡山市津島中三丁目1番1号	
経済学科	4								
昼間コース		205		820		1.07	平成16年度		
夜間主コース		40		160		1.15	平成16年度		
経済学科	—	—		—		—			平成16年度から学生募集停止
経済学部第二部									
経済学科	—	—	—	—		—			平成16年度から学生募集停止
理学部					学士(理学)	1.24		岡山市津島中三丁目1番1号	
数学科	4	20		80	学士(学術)	1.35	昭和24年度		
物理学科	4	35		140		1.17	昭和24年度		
化学科	4	30		120		1.26	昭和24年度		
生物学科	4	30		120		1.20	昭和24年度		
地球科学科	4	25		100		1.24	平成7年度		
			3年次20	40					
医学部						1.04		岡山市鹿田町二丁目5番1号	
医学科	6	95	3年次5	590	学士(医学)	1.00	昭和24年度		平成13年度から編入学の学生募集
保健学科	4				学士(看護学)				学生募集は平成11年度から
看護学専攻		80	3年次10	340	学士(保健学)	1.04	平成10年度		(医療技術短期大学部を廃止して設置)
放射線技術科学専攻		40	3年次5	170	学士(学術)	1.09	平成10年度		
検査技術科学専攻		40	3年次5	170		1.08	平成10年度		
歯学部 歯学科	4	55	3年次5	350	学士(歯学)	1.01	昭和55年度	岡山市鹿田町二丁目5番1号	
薬学部					学士(薬学)	1.07		岡山市津島中一丁目1番1号	
薬学科	6	40		120	学士(創薬科学)	1.08	平成18年度		
創薬科学科	4	40		120	学士(学術)	1.07	平成18年度		平成18年度から学生募集停止
総合薬学科	—	—		—		—			
工学部					学士(工学)	1.13		岡山市津島中三丁目1番1号	
機械工学科	4	80		320		1.12	昭和62年度		
物質応用化学科	4	60		240		1.11	平成12年度		
電気電子工学科	4	60		240		1.20	昭和62年度		
情報工学科	4	60		240		1.06	昭和62年度		
生物機能工学科	4	80		320		1.09	平成8年度		
システム工学科	4	80		320		1.11	平成8年度		
通信ネットワーク工学科	4	40		160		1.21	平成12年度		
			3年次30	60					
環境理工学部					学士(環境理工学)	1.16		岡山市津島中三丁目1番1号	学生募集は平成7年度から
環境数理学科	4	20		80	学士(学術)	1.17	平成6年度		
環境デザイン工学科	4	50		200		1.17	平成6年度		
環境管理工学科	4	40		160		1.16	平成6年度		
環境物質工学科	4	40		160		1.12	平成6年度		
農学部 総合農業科学科	4	120		480	学士(農学)	1.14	昭和61年度	岡山市津島中一丁目1番1号	
					学士(学術)				

4- (2) 既存の教員養成分野における研究科等の状況

【教育学研究科学校教育専攻 (M)】

(単位:人)

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	1	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度		
		勤務継続		
		その他		
		小計 (a)	1	
	学部新卒者 (b)	5		
	社会人学生 (c)	6		
	計 (d=a+b+c)	12		
	入学定員 (e)	10		
	定員超過率 (d/e)	1.2		

【教育学研究科障害児教育 (M)】

(単位:人)

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度		
		勤務継続		
		その他		
		小計 (a)		
	学部新卒者 (b)	2		
	社会人学生 (c)	1		
	計 (d=a+b+c)	3		
	入学定員 (e)	3		
	定員超過率 (d/e)	1.0		

【教育学研究科国語教育専攻 (M)】

(単位:人)

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	1	
		勤務継続	1	
		その他	1	
		小計 (a)	3	
	学部新卒者 (b)			
	社会人学生 (c)	3		
	計 (d=a+b+c)	6		
	入学定員 (e)	4		
	定員超過率 (d/e)	1.5		

【教育学研究科社会科教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	7	—	
	社会人学生（c）	1	—	
	計（d=a+b+c）	8	—	
入学定員（e）		8	—	
定員超過率（d/e）		1.0	—	

【教育学研究科数学教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	2	—	
	社会人学生（c）	—	—	
	計（d=a+b+c）	2	—	
入学定員（e）		4	—	
定員超過率（d/e）		0.5	—	

【教育学研究科理科教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止 その他 1名 【内訳】 現職(留学) 1名
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	1	
		小計（a）	1	
	学部新卒者（b）	8	—	
	社会人学生（c）	1	—	
	計（d=a+b+c）	10	—	
入学定員（e）		10	—	
定員超過率（d/e）		1.0	—	

【教育学研究科音楽教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	1	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度		—	
		勤務継続		—	
		その他		—	
		小計（a）	1	—	
	学部新卒者（b）	2	—		
	社会人学生（c）	4	—		
	計（d=a+b+c）	7	—		
入学定員（e）		5	—		
定員超過率（d/e）		1.4	—		

【教育学研究科美術教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度		—	
		勤務継続		—	
		その他		—	
		小計（a）		—	
	学部新卒者（b）	3	—		
	社会人学生（c）	4	—		
	計（d=a+b+c）	7	—		
入学定員（e）		5	—		
定員超過率（d/e）		1.4	—		

【教育学研究科保健体育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度		—	
		勤務継続		—	
		その他		—	
		小計（a）		—	
	学部新卒者（b）	4	—		
	社会人学生（c）	2	—		
	計（d=a+b+c）	6	—		
入学定員（e）		5	—		
定員超過率（d/e）		1.2	—		

【教育学研究科技術教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	1	—	
	社会人学生（c）	1	—	
	計（d=a+b+c）	2	—	
	入学定員（e）	3	—	
	定員超過率（d/e）	0.7	—	

【教育学研究科家政教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	2	
		その他	—	
		小計（a）	2	
	学部新卒者（b）	—	—	
	社会人学生（c）	1	—	
	計（d=a+b+c）	3	—	
	入学定員（e）	3	—	
	定員超過率（d/e）	1.0	—	

【教育学研究科英語教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	1	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	1	
	学部新卒者（b）	3	—	
	社会人学生（c）	2	—	
	計（d=a+b+c）	6	—	
	入学定員（e）	5	—	
	定員超過率（d/e）	1.2	—	

【教育学研究科養護教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	2	—	
	社会人学生（c）	2	—	
	計（d=a+b+c）	4	—	
入学定員（e）		3	—	
定員超過率（d/e）		1.3	—	

【教育学研究科学校教育臨床専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	2	
		その他	—	
		小計（a）	2	
	学部新卒者（b）	5	—	
	社会人学生（c）	3	—	
	計（d=a+b+c）	10	—	
入学定員（e）		9	—	
定員超過率（d/e）		1.1	—	

【教育学研究科カリキュラム開発専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止 その他 1名 【内訳】 現職(休職) 1名
		修学休業制度	1	
		勤務継続	2	
		その他	1	
		小計（a）	4	
	学部新卒者（b）	—	—	
	社会人学生（c）	3	—	
	計（d=a+b+c）	7	—	
入学定員（e）		7	—	
定員超過率（d/e）		1.0	—	

【教育学研究科教育組織マネジメント専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	平成20年度から学生募集停止
		修学休業制度	—	
		勤務継続	5	
		その他	—	
		小計（a）	5	
	学部新卒者（b）	—	—	
	社会人学生（c）	—	—	
	計（d=a+b+c）	5	—	
入学定員（e）		6	—	
定員超過率（d/e）		0.8	—	

【教育学研究科学校教育学専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	—	5	
	社会人学生（c）	—	1	
	計（d=a+b+c）	—	6	
入学定員（e）		—	6	
定員超過率（d/e）		—	1.0	

【教育学研究科発達支援学専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	
		修学休業制度	—	
		勤務継続	—	
		その他	—	
		小計（a）	—	
	学部新卒者（b）	—	6	
	社会人学生（c）	—	1	
	計（d=a+b+c）	—	7	
入学定員（e）		—	9	
定員超過率（d/e）		—	0.8	

【教育学研究科教科教育学専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	その他2名 (内訳) 現職(留学) 2名	
		修学休業制度	—		1
		勤務継続	—		1
		その他	—		2
		小計(a)	—		4
	学部新卒者(b)	—	37		
	社会人学生(c)	—	11		
	計(d=a+b+c)	—	52		
入学定員(e)		—	47		
定員超過率(d/e)		—	1.1		

【教育学研究科教育臨床心理学専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成19年度	平成20年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	—	その他2名 (内訳) 現職(休職) 2名	
		修学休業制度	—		
		勤務継続	—		
		その他	—		2
		小計(a)	—		2
	学部新卒者(b)	—	3		
	社会人学生(c)	—	3		
	計(d=a+b+c)	—	8		
入学定員(e)		—	8		
定員超過率(d/e)		—	1.0		

5 教員組織の概要

(1) 教員組織・担当科目の状況

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小野 擴男	平成20年4月	特色ある教育課程の実践と課題 授業分析技術とその応用 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)4,(後)4 ②(前)2
専	教授	橋ヶ谷 佳正	平成20年4月	教材開発と授業デザイン 授業実践におけるプレゼンテーション力 校外体験活動の実践研究 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						①(前)28,(後)3.6,(通年)3,(集)24
専	教授	淵上 克義	平成20年4月	学校教育の役割と教師の職能成長 教育実践研究の方法 スクール・ガートと組織開発 教師の職能成長とコーチング 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)3.9,(後)4,(集)30
専	教授	寺澤 孝文	平成20年4月	学習指導の実践と課題 授業の指導計画と教材開発 学習意欲を高める学習指導 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)3.2,(後)2, ②(前)7.5,(後)2
専	教授	住野 好久	平成20年4月	教育課程編成の実践と課題 生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題 子ども分析と学級経営 生徒指導と子どもの健康課題 校外体験活動の実践研究 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)5.6,(後)3.5,(集)10 ②(前)4
実・専	教授	田嶋 八千代	平成20年4月	学校保健・学校安全とリスクマネジメント 特別活動とキャリア教育の実践 生徒指導と子どもの健康課題 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)2,(後)1.5 ②(前)0.7,(後)2
実・専	教授	黒崎 東洋郎	平成20年4月	学習指導の実践と課題 授業の指導計画と教材開発 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						①(前)26,(後)1.2,(通年)3 ②(前)2

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
(実)・(専)	教授	仲矢 明孝	平成20年4月	特別支援教育の実践と課題 特別支援教育における授業づくり 問題行動にかかわるアセスメントと支援プログラムの開発 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						①(前)26,(後)5.4,(通年)3
(実)・(専)	教授(特任)	中尾 道子	平成20年4月	子ども分析と学級経営 特別活動とキャリア教育の実際 校外体験活動の実践研究 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(後)0.9,(集)12 ②(前)2.7,(後)2
(専)	准教授	高瀬 淳	平成20年4月	教育法規実践研究 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)2,(後)2,(集)30
(専)	准教授	佐藤 博志	平成20年4月	学級・学年・学校経営の実践と課題 学校経営戦略と評価 校内研修のマネジメント 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)5.1,(後)4 ②(前)2,(後)2
(専)	准教授	熊谷 慎之輔	平成20年4月	学校教育の役割と教師の職能成長 学校とコミュニティ 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案) 教育実践研究Ⅲ(課題検証)						①(前)2.8,(後)4
(実)・(専)	准教授	渡邊 淳一	平成20年4月	生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題 学校教育の役割と教師の職能成長 特別活動とキャリア教育の実際 教育相談の技術と実践 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案) 教育実践研究Ⅲ(課題検証) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						①(前)28,(後)2,(通年)3,(集)30
(実)・(専)	講師	山崎 光洋	平成20年4月	教育課程編成の実践と課題 特色ある教育課程の実践と課題 教材開発と授業デザイン 特別活動とキャリア教育の実際 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 教育実践研究Ⅲ(課題探究) 教育実践研究Ⅲ(課題検証) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						①(前)29.2,(後)3.7,(通年)3
兼担	教授(学部長)	高橋 香代	平成20年4月	学校保健・学校安全とリスクマネジメント						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任等 の別	職名	氏 名 (年齢)	就任予 定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任等 の別	職名	氏 名 (年齢)	就任予 定年月	担当授業 科目名	
兼任	教授	柳原 正文	平成20年 4月	問題行動にかかわるアセスメントと 支援プログラムの開発						
兼任	教授	山本 力	平成20年 4月	教育実践研究の方法						
兼任	教授	古市 裕一	平成20年 4月	特別活動とキャリア教育の実際						
兼任	教授	佐藤 暁	平成20年 4月	特別支援教育の実際と課題						
兼任	教授	伊藤 武彦	平成20年 4月	教育実践研究の方法						
兼任	教授 (特任)	宮野 正司	平成20年 4月	学級・学年・学校経営の実際 と課題 学校危機管理の方法論 教育実践研究Ⅰ(課題分析) 教育実践研究Ⅱ(課題提案)						
兼任	准教授	大竹 喜久	平成20年 4月	特別支援教育における授業づ くり						
兼任	准教授	笠井 俊信	平成20年 4月	授業実践におけるプレゼンテーショ ン力						
兼任	准教授	山田 剛史	平成20年 4月	教育実践研究の方法						
兼任	講師	笠原 和彦	平成20年 4月	特別活動とキャリア教育の実際 生徒指導と子どもの健康課題 教育実践研究Ⅰ(課題発見) 教育実践研究Ⅱ(課題解決) 課題発見実習 課題解決実習 インターンシップ実習						

(2) 科目別教員数一覧

区分	職名	科目分類									合計	備考
		共通科目							分野別 科目	実習科目		
		①領域	②領域	③領域	④領域	⑤領域	⑥領域	小計				
専	教授	(2) 2	(2) 2	(1) 1	()	(1) 1	(1) 1	(7) 7	(28) 28	(3) 3	(5) 5	⑥領域は岡山大学独自の領域（以下同じ）
	准教授	()	()	()	(1) 1	(2) 2	()	(3) 3	(15) 15	()	(3) 3	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
専・他	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
実・専	教授	()	(2) 2	(1) 1	(1) 1	()	()	(4) 4	(17) 17	(6) 6	(4) 4	
	准教授	()	()	(1) 1	()	(1) 1	()	(2) 2	(6) 6	(3) 3	(1) 1	
	講師	(2) 2	()	()	()	()	()	(2) 2	(6) 6	(3) 3	(1) 1	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
実・み	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
兼任	教授	()	()	(1) 1	(2) 2	()	(2) 2	(5) 5	(5) 5	()	(7) 7	
	准教授	()	()	()	()	()	(1) 1	(1) 1	(2) 2	()	(3) 3	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	(4) 4	(3) 3	(1) 1	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
兼任	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
合計	教授	(2) 2	(4) 4	(3) 3	(3) 3	(1) 1	(3) 3	(16) 16	(50) 50	(9) 9	(16) 16	
	准教授	()	()	(1) 1	(1) 1	(3) 3	(1) 1	(6) 6	(23) 23	(3) 3	(7) 7	
	講師	(2) 2	()	()	()	()	()	(2) 2	(10) 10	(6) 6	(2) 2	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退等含む）等の理由
1			
2		該当なし	
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項につ いての実施計画
<p>認 可 時 (20年4月1日)</p>	<p>設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。 また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに理論と実践を融合して専ら小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>⑳ 平成20年度岡山大学教育学研究科教職実践専攻は、入学定員20名に対して学部新卒者10名、現職教員10名の入学があった。学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的ならびに理論と実践を融合して高度の専門的な能力及び優れた資質の教員を養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らして、オリエンテーション後、すでに研究教員と実務家教員が協働して授業を開始している。これまで平成19年度からの文部科学省専門職大学院等教育推進プログラム「真に課題解決能力を育てるカリキュラム開発」において、教職コラボレーションセンター設置、教員のFD活動、共通科目のティーチングノート作成や課題発見実習の試行に取組み、教職大学院の設置の趣旨・目的が活かされるように準備しておりその成果を活かしている。 専任教員による教職実践専攻運営委員会を4月は毎週開催した。今後は毎月1回定期的に開催し、専任教員の共通認識を図るとともに学生指導上の課題を解決していく。FD活動として、教職大学院の理念と指導方法について研修会を平成20年4月4日開催するとともに、すべての授業を公開して、4月中に合計10回授業参観を行った。さらに岡山県教育委員会からの授業参観も計画しており、教育現場との協働によるカリキュラムの点検・評価と不断の改善を行い、教育研究活動の水準を一層向上させるように努めている。</p>	
	<p>学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、1年間に登録できる単位数について、単位の実質化の観点から再検討し改善すること。</p>	<p>⑳ 申請時には、1年間に登録できる単位数を46単位として届けていたが、単位の実質化の観点から、平成20年度入学生については、履修指導等の運用によって、1年間に登録できる単位数を40単位以内としている。 平成20年度入学者は、学部段階からの進学者では、①2年間昼間に学修する者8名と、②岡山県教育委員会の教員採用試験合格名簿登載者で、教育委員会から教職大学院の受験許可を受けて受験合格した者2名である。教員採用試験合格名簿登載者は、雇用を延期し1年間は大学院で昼間に学修し、2年目は教員として学校に赴任しながら大学院設置基準第14条適用により大学院で学修する者である。 ②の教員採用試験合格名簿登載者2名については、教職実践研究Ⅲ4単位と選択科目6単位を2年次にフレックスタイムで取得できるように配慮した。 現職教員においては、岡山県教育委員会から1年間派遣され、2年次は大学院設置基準第14条適用で学修する現職教員10名であった。この現職教員は、学校における実習がすべて免除されており1年間の登録科目は40単位以内である。現職教員においても必要に応じて2年次においてフレックスタイムで選択科目6単位を取得できるように配慮した。 平成21年度から、1年間の登録科目の上限を40単位とすることを明記するとともに、これまで修了要件を18単位としていた選択科目を、14単位に変更申請をする。この措置により修了要件は共通科目22単位、選択科目14単位、学校における実習10単位の合計46単位となるが、これは教職大学院設置規準の修了要件45単位以上である。本学教職実践専攻の設置申請においては、本来共通科目22単位ならびに選択科目における教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをコアとしてカリキュラムを構成しているものであり、その他の選択科目は、各人の課題意識や職能成長に応じて多様な授業科目の取得を可能とするために提供したものである。このことから選択科目の修了要件を4単位軽減しても教職大学院設置の趣旨や目的を損なうものではないと考えられ、教員採用試験合格名簿登載者における2年次の負担を配慮して選択科目の修了要件単位数を軽減したい。</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
	<p>実習により習得する10単位の全部を免除することが可能な仕組みとなっているが、学生の教職経験の評価方法、実習により習得させようとする内容との相関性、実習の免除基準、実践的なリーダー教員養成上の効果、学修の成果に係る評価等について不断の検証を行い所要の改善に努めること。</p> <p>なお、評価にあたっては、所属長や任命権者が評価する資料を活用するなど、客観性が担保されるよう配慮すること。</p>	<p>⑳ 設置申請における、「課題発見実習」は、解決すべき自己教育課題を発見するとともに、学校における教育課題について体系化した分析を行うものである。現職教員として5年以上の経験を持つものが作成した小論文「現代の学校課題と目指す教師像」において、自己教育課題の認識と学校における教育課題の体系化した分析のレベルを評価して「課題発見実習」の免除の可否を審査した。「課題解決実習」は、学校の実践的課題について、解決策と実施計画を立案しそれを実際に検証するものであり、10年以上の経験を持つ現職教員において、すでに学校改善や教育実践の計画実施に携わってきた経験を「教育改善報告書」を提出させ、「課題解決実習」で習得させようとする学校課題の解決・検証能力を判定し、免除の可否を審査した。「インターンシップ実習」は、多面的な子どもの理解を深め、相互に関わり交流する中で記録や省察を行うものであり、現職教員として5年以上の経験を持つ者の「職務実績報告書」で習得させようとする子ども理解能力の有無を評価し免除の可否を審査した。</p> <p>本学の教職実践専攻では、実習を免除した現職教員において、高度教育実践力を育成するために、連携協力校、現任校等におけるフィールドワークを多様に実施し、それらと共通科目・選択科目等とを連動させて実施するとともに、諸授業科目の成果を課題発見から検証までの2年間を貫く「教育実践研究」に結実させるという「教育実践研究」をコアにした教育課程を編成している。すでに、現職院生は、共通科目・選択科目・教育実践研究Ⅰの授業科目において、課題に応じて現勤務校や地域協働学校などに赴きフィールドワークを積極的に行っており、一定の枠組みのある「学校における実習」に比べ、それぞれの目的に合った課題分析が可能となっており、これらの成果は、それぞれの学生のポートフォリオで確認が可能である。</p> <p>「教育実践研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」では、勤務校の課題を分析・提案・検証することを意図しており、まず現勤務校の課題をとらえる視野を広げるために、基礎的な学習（例：社会背景、教育行政、学校経営、教育実践、研究方法等に関する学習）を行い、次に学生の実践的研究の進展状況と課題を検討して、最終的に「教育実践研究報告書」にまとめるものである。1年次前期の「教育実践研究Ⅰ」では、現勤務校や地域協働学校等のフィールドワークを行い、現任校の課題を分析し、1年次後期の「教育実践研究Ⅱ」では、現勤務校に学校改善の提案を行うものであり、現勤務校の所属長の評価が得られなければ、「教育実践研究Ⅲ」でその成果を検証することにはならない。「教育実践研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の成果は、最終的に、「教育実践研究報告書」として、①現任校の状況と課題の整理、②学生の問題意識の明確化、③研究テーマの設定、④先行研究の検討、⑤研究方法の設定、⑥文献研究、⑦事例研究・調査研究、⑧報告書執筆のフローチャートに従ってまとめられ、所属長や任命権者の評価をえることになっている。</p> <p>以上のように、学校における実習が免除された場合において、実践的なリーダー教員養成上の効果や学修の成果に与える影響について評価を行なう準備は整っており、2年次修了時はもちろん、1年次においても不断の検証を行っていくものである。</p>	
	<p>現職教員学生は2年次に赴任校若しくは現勤務校をフィールドとして活用し、学習していくこととなるが、日常勤務が過重負担とならないよう、勤務校の協力を得るほか、教育委員会等と協議し配慮すること。</p>	<p>㉑ 現職教員については、派遣にあたって校長の理解と推薦があり、2年次は「教育実践研究Ⅲ（課題検証）」のみの受講になること、教育実践報告書の作成は遠隔動画通信システムによる指導も含めて実施することにより過重負担とはならないように配慮している。しかし教員採用試験合格名簿登載者については、「教育実践研究Ⅲ（課題探究）」に加え、選択科目3科目の履修が必要となり十分に配慮する必要がある。「教育実践研究Ⅲ（課題探究）」は、「教育実践研究Ⅰ（課題発見）」および「教育実践研究Ⅱ（課題解決）」において設定した課題探究の目標と計画に基づいて、赴任校をフィールドとして活用して、自己課題解決について課題の探究を行うものである。もとより赴任校は3月末にならなければ決定されないが、すでに地域協働学校での課題解決実習も行っており、これらの自己課題解決と検証の学習経験に続くものであり、課題探究のプロセスについては「教育実践研究Ⅱ（課題解決）」で準備をしていることから対応可能と考えている。「教育実践研究Ⅲ（課題探究）」の指導は、岡山県教育委員会等とも協議した結果、専任教員から選択した指導教員による勤務校への出向指導および土曜日を活用するとともに、岡山県教育委員会と相談し赴任校の協力と配慮を得るように努力する。なお、初任者研修の免除については、現時点では免除の法的根拠がないため実施しないが、初任者研修における校内研修の本人の研究課題と連動させることについて了解を得ている。</p>	

7 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成20年 4月 15日)
* 個人情報に関する部分は除外
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先アドレス
http://www.okayama-u.ac.jp/johokoukai_j.html#secchi

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成20年 5月 10日予定)
* 個人情報に関する部分は除外する予定
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先アドレス
http://www.okayama-u.ac.jp/johokoukai_j.html#secchi

〈様式及び記載例〉

設置計画履行状況報告書・補足説明資料

岡山大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

【教職大学院】

学校法人 岡山大学
平成20年4月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名 企画係長・近^{コン}藤^{ドウ}一彦^{カズ ヒコ}

電話番号 086-251-8416

（夜間） 086-251-8416

F A X 086-251-7294

e-mail kondou-k@adm.okayama-u.ac.jp

目 次

- ① 設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ② 教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・ 2
- ③ 履修指導の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ④ 入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ⑤ 各施設，学生の自習室等の考え方・・・・・・・・・・ 5
- ⑥ 取得できる免許状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ⑦ 専ら夜間において教育を行う専攻の場合及び大学院
設置基準第14条による教育方法の特例を実施する場合・・ 7
- ⑧ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所
(サテライトキャンパス)で実施する場合・・・・・・・・・・ 7
- ⑨ 多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外
の場所で履修させる場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ⑩ 自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ⑪ 情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ⑫ 教員の資質の維持向上の方策（FD活動を含む）・・ 10
- ⑬ 管理運営の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ⑭ 連携協力校等との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ⑮ 連携協力校等での実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ⑯ 教育委員会等と調整した連携協力内容について，以
下の事項に沿って記載するとともに，その履行状況に
ついて具体的に説明してください。・・・・・・・・・・ 14
- ⑰ その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

① 設置の趣旨及び必要性

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 教育上の理念、目的</p> <p>学校教育に関する理論と実践を教授研究し、今後の学校教育に必要な知識・技術を身につけ、今日教育課題や教育事象について実践と理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる高度教育実践力を育成し、専ら高度専門職業人である教員の養成と研修のための教育を行う。</p> <p>(b) どのような教員を養成するのか。</p> <p>理念、目的に即して、①終了直後から新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員、②地域や学校で指導的役割を果たしうる中核的教員を養成する。</p>	<p>(a) について</p> <p>申請時に掲げた左記の教育上の理念・目的に沿って、教職実践専攻の教育を行っている。</p> <p>・添付資料1：教職大学院案内P2及びP4（カリキュラムの特色）参照</p> <p>(b) について</p> <p>申請時に掲げた左記の養成する人材像に沿って、具体的には教育目標を設定し、教員の職能発達とデマンドサイドのニーズに応じた選択科目の履修モデルを作成し、学生それぞれが力量を形成するように履修モデルを示して指導している。</p> <p>①新人教員について</p> <p>教員の職能発達に対応した履修モデルで、新人教員に必要とされる教育実践力を授業経営、学級経営、自己管理と設定し、初任者研修の内容を含むプログラムを組んでいる。</p> <p>②現職教員について</p> <p>教員の職能発達に対応した履修モデルで、中堅教員に必要とされる教育実践力を教科経営、学級・学年経営、対人マネジメントと設定し、中堅教員に求められる職務内容に関するプログラムを組んでいる。</p> <p>また、学校リーダーに必要とされる教育実践力を教育課程経営、学年・学校経営、人材育成と設定し、学校リーダーに求められる職務内容に関するプログラムを組んでいる。</p> <p>・添付資料1：教職大学院案内P4（教員の職能発達に対応した履修モデル）参照</p>

② 教育課程の編成の考え方及び特色

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 教育課程編成の考え方 教職実践専攻での教育課程は、その設置目的に応じて下記の編成方針で教育課程を編成する。 ① デマンドサイドのニーズに立脚したカリキュラム ② 理論と実践の誘導を中核としたカリキュラム ③ 大学院での研究成果を学校現場へ直接還元できるカリキュラム ④ 教育現場との協働によるカリキュラムの点検・評価と不断の改善を行う。</p> <p>(b) 教育課程編成の特色 共通科目は、高度な専門性を備えた教員を育成するため、すべての学生が共通に履修すべき授業科目を領域ごとに設定し、教員としての資質能力向上が図れるような授業内容としている。 ① 教育課程の編成・実施に関する領域(4単位以上) 「教育過程編成の実践と課題」、 「特色ある教育課程の実践と課題」 ② 教科等の実践的な指導方法に関する領域(4単位以上) 「学習指導の実践と課題」、 「授業の指導計画と教材開発」 ③ 生徒指導、教育相談に関する領域(4単位以上) 「生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題」、 「特別支援教育の実践と課題」 ④ 学級経営、学校経営に関する領域(4単位以上) 「学級・学年・学校経営の実践と課題」、 「学校保健・学校安全とリスクマネジメント」 ⑤ 学校教育と教員の在り方に関する領域(4単位以上) 「学校教育の役割と教師の職能成長」、 「学校とコミュニティ」 ⑥ 教育実践研究に関する領域(2単位以上) 「教育実践研究の方法」</p> <p>(c) コース(分野)別選択科目の設定における考え方、及び共通科目(基礎科目)との内容上の関連性・体系性 コース(分野)別選択科目の設定は行わず、養成する人材で示したそれぞれの職能発達を考慮して学習ニーズや専門性の育成に応じた選択科目を編成している。</p> <p>(d) 一つの授業科目について同時に授業を行う学生数(1クラスの人数)及び授業方法 授業を受け入れる学生数は、入学定員が20名であり①学部新卒者、②現職教員それぞれ10名程度と考えている。「共通科目」の受講については、両者が共通に受講するため20名程度である。「選択科目」については、入学者の学習ニーズや入学者の形態に対応して履修することになることから、その受講人数は10名程度である。</p> <p>(e) 本キャンパス以外で授業を行う科目 本キャンパス以外で授業を行う科目は、選択科目の「校外体験活動の実践研究」(株式会社「おもちゃ王国」)、ならびに学校における実習の「課題発見実習」「課題解決実習」「インターンシップ実習」(連携協力校)である。</p>	<p>理念、目的に即して、教育課程は体系化された6領域における基礎的総合的な力量を形成するための「共通科目」、教員の職能発達とデマンドサイドのニーズで編成しそれぞれの院生の学習ニーズに応じて選択できる「選択科目」及び「学校における実習科目」で編成されている。 教職実践専攻では6領域の「共通科目」、4科目群の「選択科目」、3種の「学校における実習」で編成している。</p> <p>共通科目は、①教育課程の編成・実施に関する領域(4単位以上)、②教科等の実践的な指導方法に関する領域(4単位以上)、③生徒指導、教育相談に関する領域(4単位以上)、④学級経営、学校経営に関する領域(4単位以上)、⑤学校教育と教員の在り方に関する領域(4単位以上)、⑥教育実践研究に関する領域(2単位以上)の領域を開講し体系的に編成している。</p> <p>また、教職実践専攻の授業内容は以下の特徴を持っている。</p> <p>a. 実践事例(ケーススタディ)を通して分析の視点と実践的見識が身につく教育法を導入し、研究教員と実務家教員が地域協働学校の教員と協力して多角的視点で検討を深め、共通科目ら領域のケーススタディをリアリティのあるものとする。</p> <p>b. 学部新卒者と現職教員が合同で授業を受け、グループディスカッションなどを取り入れた少人数教育で実施する。</p> <p>c. 現職教員は学部新卒者にとってメンターとしての役割を果たし、課題発見力・解決力をチームとして高めるとともに、自らの人材育成の力量を高めるようにする。</p> <p>d. 研究教員と実務家教員が現場に参加することで、地域協働学校の教職員と協働して、研究的に教育実践の課題を分析するとともに具体的に課題可決を支援する役割を果たせるように準備が可能となる。</p> <p>「教職実践専攻」の選択科目は、教員の職能発達とデマンドサイドのニーズに対応した編成を行っている。共通科目(基礎科目)の上記の6領域を踏まえて選択科目では、①教育課程・授業力育成に関する科目群、②生徒指導・学級経営に関する科目群、③学校経営に関する科目群、④教育実践研究に関する科目群を準備している。</p> <p>①、②、③では専門領域の基礎理論に基づき、実践事例に関する知識を構造的かつ体系的に捉えられる能力を育成し、④では学校現場の諸課題に対応できる実践的研究力の育成を目的としている。</p> <p>共通科目は20名で、選択科目は10名程度受講している。 少人数での密度の濃い授業を基本としつつ、理論と実践の融合を強く意識した新しい教育方法を導入することが必要との考えから、事例研究、授業観察・分析、現場における実践活動・フィールドワーク等の教育方法を積極的に導入している。</p> <p>計画どおり開講中である。</p>

③ 履修指導の方法（入学から修了までどのように教育するのか）

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 標準修了年限 2年</p> <p>(b) 修了要件 平成20年度は、50単位以上（「共通科目」22単位、「選択科目」18単位、「学校における実習」10単位以上）である。</p> <p>(c) 進級要件、履修科目の登録の上限 1年間に科目登録ができる上限は、学校における実習「10単位」を含め「46単位」としている。</p> <p>(d) 成績評価方法・基準 ・成績評価基準の内容 岡山大学学部・大学院の成績評価は、平成20年度入学生からGPA制度の導入が行われており、教職実践専攻においてもGPA制度により成績評価を行なう。</p>	<p>2年</p> <p>平成21年度から、1年間の登録科目の上限を40単位とすることを明記するとともに、これまで修了要件を18単位としていた選択科目を、14単位に変更申請をする。この措置により修了要件は共通科目22単位、選択科目14単位、学校における実習10単位の合計46単位となるが、これは教職大学院設置規程の修了要件45単位以上である。本学教職実践専攻の設置申請においては、本来共通科目22単位ならびに選択科目における教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをコアとしてカリキュラムを構成しているものであり、その他の選択科目は、各人の課題意識や職能成長に応じて多様な授業科目の取得を可能とするために提供したものである。このことから選択科目の修了要件を4単位軽減しても教職大学院設置の趣旨や目的を損なうものではないと考えられ、教員採用試験合格名簿登載者における2年次の負担を配慮して選択科目の修了要件単位数を軽減したい。</p> <p>申請時には、1年間に登録できる単位数を46単位として届けていたが、平成20年度入学生については、履修指導等の運用によって、1年間に登録できる単位数を40単位以内としている。</p> <p>平成20年度入学生は、学部段階からの進学者では、①2年間屋間に学修する者8名と、②岡山県教育委員会の教員採用試験合格名簿登載者で、教育委員会から教職大学院の受験許可を受けて受験合格した者2名である。教員採用試験合格名簿登載者は、雇用を延期し1年間は大学院で屋間に学修し、2年目は教員として学校に赴任しながら大学院設置基準第14条適用により大学院で学修する者である。</p> <p>②の教員採用試験合格名簿登載者2名については、教職実践研究Ⅲ4単位と選択科目6単位を2年次にフレックスタイムで取得できるように配慮した。</p> <p>現職教員においては、岡山県教育委員会から1年間派遣され、2年次は大学院設置基準第14条適用で学修する現職教員10名であった。この現職教員は、学校における実習がすべて免除されたものであるので1年間の登録科目は40単位以内である。2年次においてフレックスタイムで選択科目6単位を取得できるように配慮した。</p> <p>教職実践専攻においてもGPA制度により成績評価を厳格に行いGPAを目安に計画的履修並びに個々の単位取得においてレベルアップを図るように努めている。</p> <p>各院生が「共通科目」、「選択科目」、「学校における実習」の各科目においてそれぞれの成績評価基準に応じて評価をする予定である。また、これらの各領域における学習成果を教職コラボレーションセンターにおいてデジタル・ポートフォリオとして蓄積したものを、各セメスターの節目毎に評価を行う予定である。2年次に行う「教育実践研究Ⅲ」で作成する「教育実践研究最終報告書」は、最終報告会での発表と口頭試験によって審査する。</p> <p>デジタルポートフォリオに関して、①児童生徒や学級に対応する教師個人の専門的力量、②同僚と協力し、他の教員を指導する専門的力量、③学校力・地域力を上げる専門的力量という観点から評価を行っている。そのためのルーブリック（評価指標）を作成する予定である。</p> <p>「教育実践研究最終報告書」の評価基準は①研究課題の設定が「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」の成果をふまえた妥当なものである、②実践・研究の過程が、組織的・計画的に取り組まれ、科学的な手続を踏んでいる、③実践・研究の成果が、教育実践の課題を解決する上で有効なものである、④現職教員は学校力・地域力を上げるまで、新任教員は個人の課題解決とチームの一員として学校力を上げるまで、の教育実践力の向上が認められる、の4点である。</p>

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>・ 上記の内容を定める規程等</p> <p>(e) 1年コースや長期コースを設定する場合の方策</p> <p>(f) 現職教員に対する実習免除の基準等</p> <p>・ 実施の有無：有</p> <p>設置申請した「課題発見実習」は、解決すべき自己教育課題を発見するとともに、学校における教育課題について体系化した分析を行うものである。現職教員として5年以上の経験を持つものが作成した小論文「現代の学校課題と目指す教師像」において、自己教育課題の認識と学校における教育課題の体系化した分析のレベルを評価して「課題発見実習」の免除の可否を審査する。「課題解決実習」は、学校の実践的課題について、解決策と実施計画を立案しそれを実地に検証するものであり、10年以上の経験を持つ現職教員において、すでに学校改善や教育実践の計画実施に携わってきた経験を「教育改善報告書」を提出させ、「課題解決実習」で習得させようとする学校課題の解決・検証能力を判定し、免除の可否を審査する。「インターンシップ実習」は、多面的な子どもの理解を深め、相互に関わり交流する中で記録や省察を行うものであり、現職教員として5年以上の経験を持つ者の「職務実績報告書」で習得させようとする子ども理解能力の有無を評価し免除の可否を審査する。</p> <p>(g) 全部（10単位）免除の基準等</p>	<p>修了要件については 岡山大学大学院教育学研究科規程第10条、別表2、</p> <p>成績評価基準については 岡山大学大学院学則第12条の3 に定めている。</p> <p>該当なし</p> <p>「課題論文」は、「現代の学校課題と目指す教師像」の題名で1200字である。 「教育改善報告書」は、これまでに企画した「教育改善に関する実践」について、次の①～⑦の観点から記入するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 何を主題とした実践か ② いつ、どこで学校で行った実践か ③ どのような課題を解決するための実践か ④ どのような実践計画を立案したのか ⑤ 誰に対してどのように計画を実施したのか ⑥ どのような成果があり、どのような課題が残ったのか ⑦ あなたはどのような役割と責任を担ったか <p>なお、「教育改善に関する実践」の主題例として、学校経営、学校評価、校内研究、教育課程編成、指導方法、地域連携が挙げられるが、その他の主題でも差し支えない。1つの主題に絞って、適宜データ等も引用し、できるだけわかりやすく、実際の展開に沿って正確に記入するように注意した。教育改善に関する成果で、印刷物になっているものを記入させた。</p> <p>「職務実績報告書」は、現在までの職務実績について、教科指導、学級経営、生徒指導・教育相談、特別活動・特別支援教育等について報告するものである。以上は出願時書類審査として提出させた。</p> <p>実習により修得させようとする内容との相関性は上記（f）項目のとおりである提出書類「課題論文」「教育改善報告書」「職務実績報告書」を専任教員で審査し、全て可である現職教員は、全ての実習（10単位）が免除となる。</p> <p>免除の審査は、専任教員10名で事前審査を厳密に行い、入学試験時の面接審査で確認を行い、免除の可・否について決定した。事前審査の結果は、適正に評価・記載されている。</p> <p>本学の教職実践専攻では、実習を免除した現職教員において、高度教育実践力を育成するために、連携協力校、勤務校等におけるフィールドワークを多様に実施し、それらと共通科目・選択科目等とを連動させて実施するとともに、諸授業科目の成果を課題分析から検証までの2年間を貫く「教育実践研究」に結実させるという「教育実践研究」をコアにした教育課程を編成している。すでに、現職院生は、共通科目・選択科目・教育実践研究Ⅰの授業科目において、課題に応じて現勤務校や地域協働学校などに赴きフィールドワークを積極的に行っており、一定の枠組みのある「学校における実習」に比べ、それぞれの目的に合った課題分析が可能となっており、これらの成果は、それぞれの学生のデジタル・ポートフォリオで確認が可能である。</p> <p>「教育実践研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」では、現任校の課題を分析・提案・検証することを意図しており、まず現勤務校の課題をとらえる視野を広げるために、基礎的な学習（例：社会背景、教育行政、学校経営、教育実践、研究方法等に関する学習）を行い、次に学生の実践的研究の進展状況と課題を検討して、最終的に「教育実践研究報告書」にまとめるものである。1年次前期の「教育実践研究Ⅰ」では、現勤務校や地域協働学校等のフィールドワークを行い、現任校の課題を分析し、1年次後期の「教育実践研究Ⅱ」では、現勤務校に学校改善の提案を行うものであり、現勤務校の所属長の評価が得られなければ、「教育実践研究Ⅲ」でその成果を検証することにはならない。「教育実践研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の成果は、最終的に、「教育実践研究報告書」として、①現任校の状況と課題の整理、②学生の問題意識の明確化、③研究テーマの設定、④先行研究の検討、⑤研究方法の設定、⑥文献研究、⑦事例研究・調査研究、⑧報告書執筆のフローチャートに従ってまとめられ、所属長や任命権者の評価をえることになっている。</p> <p>以上のように、学校における実習が免除された場合において、実践的なリダー教員養成上の効果や学修の成果に与える影響について評価を行なう準備は整っており、2年次修了時はもちろん、1年次においても不断の検証を行っていくものである。</p>

④ 入学者選抜の概要

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等) 学部新卒者は、①小論文、②面接、③書類審査(学部での成績、志望理由書等)、現職教員は、①小論文、②面接、書類審査(教員としての実績、志望理由書等)である。</p> <p>(b) アドミッション・ポリシー ① 学校教育にたずさわることへの使命感と熱意のある人 ② 学校教育の現状について幅広い関心を持ち、高度の教育実践力の獲得と向上により、課題解決に意欲のある人 ③ 学校づくりの有力な一員となり得る新人教員、または地域や学校における指導的役割を果たすことを目指す現職教員</p> <p>(c) 現職教員受入れのための具体的方策 現職教員受け入れについては、①岡山県教育委員会から1年間派遣され2年次は大学院設置規程第14条適用で学修する現職教員、②2年間大学院設置規程第14条適用で主に夜間に学修する現職教員、③研修休業制度を利用する現職教員、を受け入れる。</p>	<p>入学者選抜の概要については、平成20年度岡山大学教育学研究科教職実践専攻学生募集要項に記載している。選抜方法は、書類審査、小論文、面接である。書類審査は、専任教員10名で事前審査を行った。小論文ならびに面接は、前もって作成した評価基準に従って採点した。面接審査は、現職教員、学部新卒者ともにそれぞれ5名の専任教員で面接を行った。 (添付資料6 平成20年度岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)学生募集要項 参照)</p> <p>左記のアドミッション・ポリシーをもとに入学者選抜を行った。 (添付資料6 平成20年度岡山大学教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)学生募集要項8頁 参照)</p> <p>現職教員の平成20年度入学者は、岡山県教育委員会から派遣された①の現職教員が10名であった。</p>

⑤ 各施設、学生の自習室等の考え方

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 講義・演習室 教職大学院の学生教育に必要な普通教室は、主として既存の教育学部講義棟の講義室及び演習室を学部学生及び既存の修士課程学生と共用している。</p> <p>(b) 自習室 教職大学院の学生自習室には、十分なスペースを備えた部屋を準備する。</p> <p>(c) 図書(データベース含む) 図書資料及び電子資料は、既に大部分は中央図書館及び教育学部関係講座の資料室に所蔵している。また、教職実践専攻は、現在のカリキュラム開発専攻及び教育組織マネジメント専攻を母体として設置するため、これらの専攻の図書を移行することとしている。</p> <p>(d) 情報設備 上述の自習室へ学生用PCを設置する予定としており、さらに平成20年度には、2年次生が現任校から教員の指導を直接受けることができるよう双方向会議システムを教職コラボレーションセンターに設置している。</p>	<p>教育学部改修により、講義棟の一部(別紙様式1、3施設・設備の状況参照)が使用できないが、使用できる範囲の講義室、他専攻の演習室等の利用により支障はない。</p> <p>教職大学院の学生自習室として、整備した部屋(58㎡)を確保した。なお、利用時間については、午前8時30分から午後10時まで利用できる。</p> <p>平成20年度に教職実践専攻を新設するに当たり、教育学部学術研究委員会では、当面同専攻関係図書を重点的に整備している。 (別紙様式1、3施設・設備の状況参照)</p> <p>学生用PCは、自習室に1台設置し、教職コラボレーションセンターにあるノート型PC15台も使用可能である。双方向会議システムは設置済み。</p>

⑥ 取得できる免許状

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 取得できる免許状</p> <p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭専修免許状（国語，書道，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，英語） 幼稚園教諭専修免許状 養護教諭専修免許状</p>	<p>当初の計画どおり平成19年12月25日課程認定を受け，取得できる免許状は左記のとおりである。</p> <p>また，教職実践専攻では教育職員免許法による免許状を有する者に出願資格を限定しているため，未取得者の入学はない。</p>

⑦ 専ら夜間において教育を行う専攻の場合及び大学院設置基準第14条による教育方法の特例を実施する場合

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 修業年限 修業年限は2年間である。</p> <p>(b) 履修指導の方法 夜間において年間20単位の授業科目を開講し、2年間で単位を取得可能としている。</p> <p>(c) 授業の実施方法 夜間開講の授業科目は月曜日から金曜日まで18時00分～21時10分までの間に2時限（1時限は90分）を開設するほか、土曜日の午後後に2時限を開設している。また、また、夏季・冬季の休業中及び必要に応じ指定した日時に開設することがある。</p> <p>(d) 教員の負担の程度 兼任となる講義・演習の負担を軽減し、最終的には1～2科目の負担増に留めるよう配慮しているため、著しい負担の増加とはならないようにしている。</p> <p>(e) 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な教員の配置 附属図書館の利用時間は通常月曜日から金曜日までは午後10時まで、土曜日は午後5時まで開館しているため、夜間課程の大学院生にも十分対応できる。文献検索は同図書館のネットワークを利用すれば常時可能である。情報処理施設については、学内の情報処理センターの端末40台が設置されているため常時使用が可能である。 職員の配置については、教職コラボレーションセンターに事務職員を配置している。</p> <p>(f) 学生確保の見通し</p> <p>(g) 入学者選抜方法 選抜に当たっては、書類審査、小論文、面接で行う。 ただし、2年間14条適用で主に夜間学修する現職教員においては、初等中等教育における10年以上の教職経験を有し、「学校における実習」10単位がすべて免除できる条件を入学時満たす必要がある。</p>	<p>平成20年度は夜間を希望する学生は入学しなかった。</p> <p>希望者があれば対応する。</p> <p>添付資料6： 平成20年度岡山大学教育学研究科教職実践専攻学生募集要項</p>

⑧ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 対象学生</p> <p>(b) 受入れ学生数</p> <p>(c) 開設科目名と担当教員名</p> <p>(d) 施設・設備、図書</p> <p>(e) 教員の移動への配慮</p>	<p>該当なし</p>

⑨ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 実施場所、実施方法</p> <p>教職コラボレーションセンターにおいて、現職教員が現任校で教職大学院の教員の指導を直接受けることができるように、平成20年度から双方向会議システム（マルチ動画システム）を設置した。また、今後、本学のeラーニングシステムの活用も行う。</p> <p>(b) 開設科目名</p> <p>双方向会議システムは夜間開講の授業や14条適用した場合、教育実践研究Ⅰ（課題分析）、教育実践研究Ⅲ（課題検証）、教育実践研究Ⅳ（課題探究）の授業実施時に活用する予定である。</p> <p>(c) 開設科目毎における対象の学生数</p>	<p>教職コラボレーションセンターにおいて設置済みであり、次年度以降活用予定である。</p> <p>（参考）岡山大学学則第10条第3項 （授業の方法） 第10条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。 2 各学部は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第25条第2項の規定に基づき文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。 3 各学部は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。 4 各学部は、大学設置基準第25条第4項の規定に基づき文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。</p> <p>平成20年度、夜間を希望する学生はいなかった。</p> <p>10名程度</p>

⑩ 自己点検・評価

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 実施体制・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価を全授業科目で実施する。 ・カリキュラムの点検・評価は「教職大学院連携協議会」での検討と、「教職実践専攻運営委員会」の下部組織である「自己点検・評価委員会」が担う。 ・本専攻では実務家教員と教育研究者の大学教員がチームを組んで授業を行うことが多いことから、それぞれの長所を生かして互いにサポートする形で自己点検・評価を行っていくシステム（同僚評価・ピアレビュー）も導入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価は、7月と1月に実施する予定である。 ・「教職大学院連携協議会」は、教職大学院運営委員会とともに、点検・評価の機能を担う。「教職大学院連携協議会」の委員は、岡山県教育委員会の新井和夫教職員課長、竹井千庫指導課長、中井智子岡山県総合教育センター長、岡山市教育委員会菅野和良学事課長、曾田佳代子岡山私立岡山中央中学校長等実習校校長に委員を委嘱した。 ・「教職大学院運営委員会」の下部組織である「自己点検・評価委員会」（委員長：小野擴男教授）は自己点検・評価を行い、授業及びカリキュラムの改善を図っている。 ・実務家教員と教育研究教員は4月に10回の授業参観を実施した。

⑪ 情報提供

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 学内（学生・教職員等）向け実施方法</p> <p>「教育課程」「入試方法」「指導教員」「受験資格」等は、パンフレット、ホームページ、広報誌、公開説明会、入試要項等で情報提供を行う。</p> <p>(b) 学外（受験生・地域社会等）向け実施方法</p> <p>「教育課程」「入試方法」「指導教員」「受験資格」等は、パンフレット、ホームページ、広報誌、公開説明会、入試要項等で情報提供を行う。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科のホームページ、パンフレット、広報誌、公開説明会を活用して情報提供を行った。パンフレットは岡山県教育委員会を通して岡山県下の公立学校に配布した。広報誌は、岡山大学広報「いちよう並木」42号（2008年2月発行）を発行した。公開説明会は2007年12月8日に行った。</p> <p>添付資料1：教職大学院案内</p> <p>添付資料7：「いちよう並木」</p> <p>同上</p>

⑫ 教員の資質の維持向上の方策（FD活動を含む）

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 実施体制</p> <p>① 委員会の設置状況 学部・研究科FD委員会と連携して行う。</p> <p>② 委員会の構成員</p> <p>③ 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>④ 委員会の審議事項等</p> <p>(b) 実施状況</p> <p>① 実施内容</p> <p>1. 教員の個人評価</p> <p>2. 学生による授業評価を実施し、授業の改善を図る。</p> <p>3. ケーススタディやフィールドワークを重視した授業展開を行う。</p> <p>4. 授業科目相互に密接なつながりを持たせる。</p> <p>5. 実務家教員と研究教員の共同授業のために連携協力した体制をとる。</p> <p>② 実施方法</p> <p>1. 全専任教員を対象に、教員個人の活動状況について点検・評価する。</p> <p>2. 全ての科目について授業評価アンケートを実施し、集計結果は、大学全体及び学部ごとの統計数値を添付して担当教員に通知する。</p> <p>3. ケースを用いた授業開発やその教材づくりに関するFDを実施し、授業担当者の指導力向上のための指導法の開発を共同で実施する。</p> <p>4. 授業は原則公開とし、教員が相互に授業を参観する。</p> <p>5. 教材の選定から授業法の開発に至るまで、実務家教員と研究教員が連携協力した体制で実施し、教員養成カリキュラム検討機構ならびに学部・大学院FD委員会と連携して常に点検・評価を行う。</p> <p>③ 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>④ 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p>	<p>岡山大学教育学部・教育学研究科FD委員会（委員長 福永信哲教授）と協力して、教職実践専攻運営委員会の下部組織としてFDプロジェクトチームを構成し、FD活動を推進している。</p> <p>FDプロジェクトチームは下記3名が構成員である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋ヶ谷 佳正 教授 ・黒崎 東洋郎 教授 ・佐藤 博志 准教授 <p>平成20年度第1回のFDプロジェクト委員会を、4月4日に開催した。</p> <p>実務家教員（田嶋、黒崎、仲矢、渡辺、山崎、中尾）参加 参加率100%</p> <p>理論的な科目を担当する教員（小野、橋ヶ谷、淵上、住野、寺澤、佐藤、熊谷、高瀬）参加 参加率100%</p> <p>第1回のFDプロジェクト委員会で審議した事項は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教職大学院の理念と指導方法 ②デジタルポートフォリオと「こらみゅ」 ③学校における実習の指導方針と指導体制 である。 <p>1. 岡山大学では、教員の個人評価は全専任教員を対象にして、教員個人の活動状況について自己点検・自己評価を行っている。</p> <p>2. 学生による授業評価は、現在学部・研究科の授業で実施している学生による授業評価アンケートの調査票で実施する（7月及び1月実施予定）。</p> <p>3. ケーススタディやフィールドワークを重視した授業展開を行うためにすでに昨年度教材づくりに関するFDを実施し、ティーチングノートを作成し、授業担当者の指導力の向上に努めている。</p> <p>4. 授業科目相互に密接なつながりを持たせるために授業は公開とし、教員が相互に授業を参観し、FDに努めている。</p> <p>5. 実務家教員と研究教員の共同授業のために連携協力した体制をとるために教材の選定、授業法の開発など、連携協力している。</p> <p>1. 全専任教員を対象に、教員個人の活動状況について点検・評価し個人評価としてWeb上で公開している。</p> <p>2. 全ての科目について授業評価アンケートを実施し、集計結果は大学全体及び学部ごとの統計数値を添付して担当教員に通知している。</p> <p>3. 昨年度から文部科学省専門職大学院等GP助成金を活用して取り組み、本年度も継続して取り組んでいる。</p> <p>4. 積極的に授業参観を行っている。特に研究教員と実務家教員の間で行われており、4月中は10回授業参観を行った。</p> <p>5. 今後も継続して実施予定である。</p> <p>教員の授業参観は4月の授業開始後、10回実施した。学生による授業評価は、7月及び1月に実施する。</p> <p>本年度中に実施予定</p>

⑬ 管理運営の考え方

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 教授会</p> <p>① 構成員 大学院教育学研究科専任教員</p> <p>② 開催状況 原則毎月1回</p> <p>③ 審議事項 教育学研究科に関する教育研究に関すること 教員の選考に関すること 教育課程の編成に関すること 学生の入学、退学、修了その他在籍に関すること及び学位授与に関すること等</p> <p>(b) その他の組織体制</p> <p>・「教職実践専攻運営委員会」等</p> <p>本専攻の教育課程や人事に関する事項などの固やかつ重要な事項を処理するため、「教職実践専攻運営委員会」を設置した。運営委員長は橋ヶ谷佳正教授である。同委員会には「自己点検・評価委員会」を下部組織として置き、点検・評価を担う。また、教育委員会や学校現場との実効性のある協働体制をつくるために、「教職コラボレーションセンター」を設置した。同センター内に「教職大学院連携協力会議」をおき、学校における実習と教育実践研究に関する評価を行うとともに、教職大学院運営委員会とともに自己点検・評価を行う。</p> <p>外部評価は「学部・研究科外部評価委員会」で実施し、組織的なFD活動は「学部・研究科FD委員会」と協力してFDプロジェクトチームを設置した。</p>	<p>計画どおり、月1回の頻度で、教職大学院を含む教育学研究科に関する教育研究に関する事項の審議を行っている。</p> <p>なお、教職実践専攻に特化した事項については「教職実践専攻運営委員会」等で検討を行っている。</p> <p>教職実践専攻運営委員会は、教職大学院専任教員で構成し、2008年4月は毎週1回開催したが、今後基本的には毎月1回開催の予定である。</p> <p>「教職実践専攻運営委員会」は教職大学院の運営全般、「自己点検・評価委員会」は点検・評価、「教職コラボレーションセンター」は教育委員会や学校現場との実効性のある協働体制づくり、「教職大学院連携協力会議」は教育関係組織との連携協力および学校における実習と教育実践研究に関する事項、ならびに自己点検・評価を審議する。</p> <p>「学部・研究科外部評価委員会」は、外部評価を担当する。</p>

⑭ 連携協力校等との連携

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 連携協力する学校名(小学校等)と具体的な連携内容</p> <p>地域協働学校として岡山市立石井中学校区の4校ならびに岡山市立岡山中央中学校, 同小学校等「学校における実習」で連携する。</p> <p>(b) 連携協力校以外の関係機関(民間企業, 関係行政機関, 教育センター等)の名称と具体的な連携内容</p> <p>株式会社おもちゃ王国の「あそびの学校」をフィールドとして, 選択科目「校外体験活動の実践研究」の体験活動を行う。</p> <p>(c) 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p> <p>各授業科目のフィールドとして, および「教育実践研究Ⅱ・Ⅲ」のフィールドとして活用する予定である。</p>	<p>「課題発見実習」と「課題解決実習」は, 岡山市立石井中学校, 岡山市立石井小学校, 岡山市立大野小学校, 岡山市立三門小学校, 岡山市立岡山中央中学校で行っている。当初, 中学校実習校は石井中学校のみ予定していたが, 新卒院生に中学校での実習希望が多く, 石井中学校に負担がかかりすぎると判断し, 岡山市教育委員会に依頼・調整を行い, 岡山市立岡山中央中学校に依頼し, 実施することとなった。</p> <p>インターンシップ実習の特別支援学級実習は, 岡山市立岡山中央小学校と岡山市立岡山中央中学校で, 部活動実習は, 岡山市立岡山中央中学校で行っている。</p> <p>計画どおり実施している。</p> <p>活用する予定である。</p>

⑮ 連携協力校等での実習

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 授業科目名及び指導教員名</p> <p>「学校における実習」の授業科目名と担当教員名は下記のとおりである。</p> <p>「課題発見実習」 <指導教員> 黒崎東洋郎, 橋ヶ谷佳正, 中矢明孝, 渡邊淳一, 山崎光洋, 笠原和彦</p> <p>「課題解決実習」 <指導教員> 黒崎東洋郎, 橋ヶ谷佳正, 中矢明孝, 渡邊淳一, 山崎光洋, 笠原和彦</p> <p>「インターンシップ実習」 <指導教員> 黒崎東洋郎, 橋ヶ谷佳正, 中矢明孝, 渡邊淳一, 山崎光洋, 笠原和彦</p> <p>(b) 実習計画の概要</p> <p>①課題発見実習</p> <p>・具体的な実習内容: 地域協働学校の特色ある取組を前期の間週一回観察・参加実習することにより, 教科指導, 生徒指導, 学級経営, 教員・保護者・小中の連携のあり方等に関する実践的な教育課題を理解し, 「教育実践研究Ⅰ(課題発見)」と連動して自己課題を明確化するとともに, 学校における教育課程について体系化した分析をしている。</p> <p>②課題解決実習</p> <p>目標・内容: 課題発見実習と教育実践研究Ⅰ(課題発見)の成果をもとに, 大学教員, ならびに実習校の担当教員の指導のもと, 地域協働学校で取り組む課題について解決策と実施計画を立案し, それを実地に検証する実習である。主体的に教育計画の立案を行い, 実施し, 学校運営に関わる活動など幅広く学校教育活動に参画し, 責任をもって課題を解決する力を身につける。</p>	<p>児童生徒に対する指導は「教科指導」「生徒指導」「学級経営」などを中心とした参画実習を行っている。その他教職員会議・地域連携事業にも参加している。</p> <p>①課題発見実習</p> <p>各実習校あたり2名ずつの院生を配当した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立石井中学校: 2名 ・岡山市立石井小学校: 2名 ・岡山市立大野小学校: 2名 ・岡山市立三門小学校: 2名 ・岡山市立岡山中央中学校: 2名 <p>実習の日誌および分析を教職大学院SNS(こらみゅ)内のWE Bポートフォリオに記入・蓄積・交流している。</p> <p>実習校には専任教員が訪問し, 地域協働学校の担当教員と相談・意見交換した。</p> <p>②課題解決実習</p> <p>8月末より9月(5週間)に各実習校で実施する。各実習校あたり2名ずつの院生を配当した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立石井中学校: 2名 ・岡山市立石井小学校: 2名 ・岡山市立大野小学校: 2名 ・岡山市立三門小学校: 2名 ・岡山市立岡山中央中学校: 2名

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>③インターンシップ実習</p> <p>・目標・内容：教師としての実践的な指導力の強化を図るために、大学教員、ならびに実習校の担当教員の指導のもと、指導補助を行い、特に特別活動や特別な支援を必要とする子どもなど多面的な子ども理解を深め、相互に関わり交流する中で記録や省察を行う。また保護者や教職員、他機関等との連携の大切さを実感的に理解する。</p> <p>(b) 実習指導体制と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導計画 課題発見実習 毎月1回 課題解決実習 毎月1回 インターンシップ実習 毎月1回 <p>(c) 施設との連携体制と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設との連携の具体的方法、内容 教職コラボレーションセンターが担当 ・相互の指導者の連絡会議設置の予定等 教職大学院連携協力会議を年2～3回開催予定 ・大学と実習施設との緊急連絡体制 基本的に、大学と連携協力校の担当者が連絡窓口となっているが、緊急連絡は常時教職コラボレーションセンターで受け付ける。 ・施設側の指導者 実習校教員を指定する。 <p>(d) 単位認定等評価方法</p> <p>実習担当教員が実習校教員と連携して評価</p>	<p>③インターンシップ実習</p> <p>院生はA～Dの4グループに分かれ、前後期交代で実習を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立岡山中央中学校（特別支援学級実習）：前期/2名、後期/2名 ・岡山市立岡山中央中学校（部活動実習）：前期/5名、後期/5名 ・岡山市立岡山中央小学校（特別支援学級実習）：前期/3名、後期/3名 <p>現在、課題発見実習とインターンシップ実習で2名の教員（研究教員と実務家教員）が1組になり、担当学校を決定し、実務家教員は毎週、研究科教員は隔週巡回指導するとともに、各学校の担当教員との情報交換・調整等を行っている。</p> <p>実習開始前に3回訪問するとともに、巡回指導の際、各学校の校長、担当教員との情報交換・調整等を行い連携を図っている。</p> <p>各学校とは上記のように行っているが、実習全般としては「教職大学院連携協力会議」が担当している。「教職大学院連携協力会議」は、岡山県教育委員会の新井和夫教職員課長、竹井千庫指導課長、中井智子岡山県総合教育センター長、岡山市教育委員会菅野和良学事課長、曾田佳代子岡山私立岡山中央中学校校長等実習校校長に委員を委嘱した。</p> <p>現時点で緊急連絡なし</p> <p>実習校における指導は、校長・教頭が指導者としての適任者を指定している。平成20年度は、小学校で実習を行う院生は、配属されたクラスの担任が指導者である。中学校で実習を行う院生は、院生の専門教科をもとに教科専門教員が指導者となりその教員の担当クラスに配属している。</p> <p>課題発見実習に関する評価に必要な資料を収集するために実習での経験やその考察を教職大学院SNS（こらみゅ）のWEBポートフォリオに蓄積している。教育実践研究Ⅰにおいて、各人による実習の考察を研究教員・実務家教員および院生相互で検討し、各人の課題発見が発展するよう指導している。</p>

- ⑯ 教育委員会等と調整した連携協力内容について、以下の事項に沿って記載するとともに、その履行状況について具体説明してください。

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 養成する人材像について</p> <p>① 修了直後から新しい学校づくりの有力な一員となる新人教員</p> <p>② 地域や学校で指導的役割を果たし得る中核的教員で合意している。</p> <p>(b) 教育課程・教育方法について</p> <p>① 実践的指導力を育成する体系的で効果的なカリキュラム編成</p> <p>② 実践的で新しい教育方法の開発・導入の方策</p> <p>③ デマンド・サイドの意見・ニーズが反映される教育課程等の改善のシステムについて検討した。</p> <p>(c) 履修形態について</p> <p>・ 現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における昼夜開講制等の配慮・工夫の方策について検討した。</p> <p>(d) 教員組織について</p> <p>① 設置の趣旨・特色、教育課程等を踏まえた理論と実践の融合が担保される教員組織の全体構成</p> <p>② 実務家教員に求める教職経験の内容、資質等</p> <p>③ 県教育センターの専門的能力の活用・協力</p> <p>④ 実務家教員の資質確保に関わる継続的な採用方策等について相談した。</p> <p>(e) 連携協力校等の確保について</p> <p>・ 毎年度継続して連携協力校等を確保できる方策について、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び倉敷市教育委員会等と協議した。</p> <p>(f) 実習先について</p> <p>① 設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた、実習校の学校種、規模(生徒数、教員数)、立地条件(都市、地方など)に応じた実習先の確保について協議した。</p>	<p>岡山県教育委員会と「養成する人材像」について合意し、今年度は入学定員20名のうち10名の現職教員が派遣された。更に学部新卒者で岡山県教員採用試験に合格し、教員採用名簿登載者2名が1年間採用を猶予され入学した。</p> <p>岡山県教育委員会から派遣された3名の実務家教員と研究教員との連携協力により、実践的指導力を育成する教育課程が実施されている。</p> <p>教育方法については少人数で密度の濃い授業を基本としつつ、理論と実践の融合を強く意識し事例研究、授業観察・分析、現場における実践活動・フィールドワーク等の教育方法を導入している。</p> <p>教職実践専攻運営委員会を中心に4月3日FD活動を実施した。「教職コラボレーションセンター」を中心に教職大学院・岡山県教育委員会・連携協力校・大学院生の協働体制を確立し、上述の教育課程・教育方法の実現を保障している。さらに「教職大学院連携協力会議」は、岡山県教育委員会の新井和夫教職員課長、竹井千庫指導課長、中井智子岡山県総合教育センター長、岡山市教育委員会菅野和良学事課長、曾田佳代子岡山私立岡山中央中学校校長等実習校校長に委員を委嘱した。</p> <p>現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における配慮・工夫としては、14条特例を適用して夜間開講を行うほか、e-ラーニングシステム又はテレビ会議システムによる授業及び研究指導を行う予定である。</p> <p>その際、岡山県教育委員会と協議し、指導教員による勤務校への出向指導および土曜日を活用した「定期的な指導(週1回)」や長期休業期間を活用した検討会(前期)や中間発表、最終報告会の実施を行うこととしている。また、勤務校の地理的・時間的問題で大学での受講が難しい場合は、遠隔動画通信システムによる指導の実施も可能である。</p> <p>本年度は、全員屋間に受講しており、現時点では利用していない。</p> <p>教職実践専攻では、専任教員14名(基準より3名強化)を配置し、そのうち実務家教員を6名とした。また、実務家教員のうち2名は、岡山県教育委員会からの交流人事として3年ごとに現場経験の豊富な教員を受け入れる。</p> <p>この2名は岡山県総合教育センターの指導主事経験者である。専門分野は教育相談、教科指導である。また、「教職大学院連携協力会議」には、岡山県総合教育センター長が委員として協力している。</p> <p>連携協力校の確保については、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の協力により、常に新しい教育形態や指導法、また様々な今日の教育課題を取り上げることが出来るようにしている。特に中心となる実習校である「地域協働学校」は、岡山市において全中学校区を指定していく予定であり、現在の実習校である石井中学校区での取組が一定期間継続し成果が得られた時点で、岡山市教育委員会と相談して別の学区に移行することも予定している。さらに連携協力校として、今後大学・教育委員会と「特色ある学校づくりの推進校」「研究指定校」「教育困難校」等を課題に応じて選定していく予定であり、あくまでも今日の課題に対応できるように実習校の確保を行うものである。その他、附属学校園も実習校並びにフィールドワークの対象校とし、連携協力校として位置づけている。</p> <p>平成20年度から教職大学院の実習校として指定しているのは、岡山市石井中学校区にある岡山市立石井中学校、石井小学校、大野小学校、三門小学校の地域協働学校及び岡山中央中学校、岡山中央小学校の6校である。石井中学校区の地域協働学校は、幼小中連携教育の特色があるだけでなく、「小学校英語イメージ教育」「生徒指導」「地域連携」等のそれぞれの特色を持っている。岡山市立中央中学校、同中央小学校は特色ある特別支援教育を行っている点で特徴がある。</p>

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(g) 教職大学院の管理運営体制</p> <p>①恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携する方策 岡山大学と岡山県教育委員会の「連携協力会議」、「同専門委員会」並びに「教職コラボレーションセンター」、「教職大学院連携協議会」で対応する。</p> <p>(h) 連携する教育委員会における教職大学院の研修の位置づけ 現職教員派遣を行い、学校支援機能に期待する。</p> <p>(i) 連携する教育委員会等における修了者の処遇 修了者の処遇については、教職大学院修了が履修事項として記入されているだけで、特記するものではない。</p> <p>(j) その他</p> <p>①FD活動への教育委員会等の協力内容 「教職大学院連携協力会議」によって協力する。</p> <p>②自己点検・評価等への取組み 「教職大学院連携協力会議」は、教職大学院の運営委員会とともに点検・評価の機能を担う。</p>	<p>岡山大学教育学部は、岡山県教育委員会と平成12年9月に、教育の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携して基礎的・実践的研究を行い、その成果を生かして岡山県の教育の充実・発展を図るために「連携協力に関する覚書」を締結した。研究内容は、教員養成に関する事項、教員研修に関する事項、学校教育上の諸課題への対応に関する事項、その他両者が必要と認める事項である。その後、連携協力会議、連携協力会議専門委員会を組織し、具体的なテーマを年次ごとに策定して様々な連携事業に取り組んできている。平成19年度の連携協力事業は22件であり、毎年研究報告書を発行している。</p> <p>また、県下の教育委員会の委員として協力している教員も多く、岡山大学教育学部は、組織的恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携するシステムがあるといえる。</p> <p>岡山県教育委員会は、教職大学院現職教員派遣を命令研修として位置づけている。</p> <p>取り扱いに変更はない。</p> <p>岡山県教育委員会には、申請時のカリキュラム編成に協力を得た。その後、平成20年3月15日（土）開催の専門職大学院等GP平成19年度成果報告会には、岡山県教育委員会から9名、市町村教育委員会から3名参加し、FD活動に協力した。</p> <p>教職実践専攻運営委員会の下部組織として自己点検・評価委員会を設置した。委員長は小野擴男教授である。</p>

⑰ その他（当該年度の状況が以下の事項に該当する場合は、それぞれの事項ごとの観点に照らして対応状況を説明すること）

当該年度の状況	対応状況
(a) 当該年度の入学生数が入学定員を著しく下回っている（0.5倍未満）場合	該当しない。
(b) 当該年度の入学生数がコース毎の募集人員を著しく下回っている（0.5倍未満）場合	該当しない。
(c) 未開講科目数が多い（5科目以上）場合	該当しない。
(d) 当該専攻の入学定員超過率が1.2倍を超えている場合	該当しない。